

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
 発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
 電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

の中で目にしたへ……人間の魅力を持ち、一人でできないことを多くの人の協力で、成し遂げさせることがリーダーシップである」とのリーダー論に学び励まされております。

○会を代表して、中井敬三東京都教育長を表敬訪問いたしました。2月10日は冬晴れ。教育長室のある都庁第一庁舎37階からは雪に覆われた霊峰富士の姿と丹沢山系の稜線がクッキリと見えました。冒頭、ご多忙中、このような機会を設定していただいたことに御礼を申し上げます。また、来る定期総会のご臨席をお願いしました。



東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

「開かれた組織運営をめざして」 —和の心を大切に—

櫻花爛漫の季節。会長を引き受けて「原点回帰」をお約束してから、早くも一年を迎えようとしております。まさに「疾きこと風の如く」の感があります。今、役員をはじめ多くの会員の皆様の力強いエネルギーを感じながら、5月13日の定期総会への準備に懸命の毎日であります。時に足を止め、天を仰ぎます。しかし、救いは、人材の宝庫たる我々の組織が私の心配を先取りしてくれていることでもあります。当面の課題である事業内容の精選、財政の在り方、会員確保に拍車がかかっています。また、手元に届く、多くの「支部だより」

文部省唱歌「蛍の光」とともに愛唱歌だった「仰げば尊し」。歌詞が文語で分かりにくいとか、時代に合わないとか。いずれも、独りよがりの解釈と感じます。この10年、〈旅立ちの歌〉が卒業式のトップソングとか。これも良い歌です。しかし、明治17年誕生の〈仰げば尊し〉。歌詞にある「わが師の恩……」そして、「今こそ、わかれめ……」と歌うほどに涙が溢れます。これぞ卒業式の讃歌。流行に翻弄されず、不易を大切にすると平成の教育であってほしいと願うばかりです。

○さて、都委託事業である人材バンク事業と採用前実践的指導力養

都の教育界における本会の重要性を深く理解されている教育長からは退職校長会への激励とさらなる連携強化を約束していただきました。会見は短時間でしたが和やかな中に実り多い表敬訪問となりました。

○この時期は、別れと出合いの季節です。子ども達は、エルガーの行進曲「威風堂々」で入場しました。そして、久々に卒業式で〈仰げば尊し〉を歌いました。歌いながら遠い昔の恩師を思い、我が青春のあの友の姿を追ひ、大きくなた孫の小さき時の可愛さに自然と涙し、何度も声を詰まらせました。

主な記事

- | | |
|------------------------|------------------------|
| P1 巻頭言 | P8 書物雑感 |
| P2 定期総会案内 | P9 支部長会・高齢者叙勲会員 |
| P3 中井敬三教育長を多田丈夫会長が表敬訪問 | P10 採用前研修事業受託事業報告 |
| P3 湯島の動静表 | P11 人材バンク受託事業特別運営委員会報告 |
| P4 東京都教育庁幹部との懇談会 | P12 大学への普及広報活動実践報告 |
| P5 業務改善・基金検討委員会から報告(2) | P13 会員だより |
| P6 各部だより | P16 物故者・応募コーナー編集後記 |

成講座の2つの事業が終了いたします。27年度は、2つの委員会が直接、委託業務の推進役を引き受け、事業の計画、立案、行動、評価等のすべてを担当してまいりました。名実ともに、組織の総力を挙げて事業推進の実を挙げることでできました。これらの事業に係っていた支部長会をはじめ、多くの退職校長に心から感謝申し上げます。

まもなく、年度が切り替わります。役員一同、和の心を大切に、開かれた組織運営を心掛け、新たな決意で業務推進に専念したいと存じます。今後とも会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成二十八年度 第六十三回 定期総会案内

第六十三回定期総会を左記のとおり開催します。

『活動に参加し心を通わせ』

絆を強めよう』

各支部の役員及び会員多数のご出席を期待します。

○開催日 五月十三日（金）

・受付 一一・三〇

・定期総会 一二・三〇

・会員研修会 一四・二〇

・懇親会 一五・三〇

○会場 スクワール麹町

・JR四谷駅下車（南口）

・電話 三二三四―八七三九

○懇親会費 七千円

『長寿・荣誉・功労会員』

へのご案内

案内状は郵送にてお届けします。総会の席でお祝いと感謝の意を表します。

万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますよう、お願い申

し上げます。

総会・懇親会出席申込方法

○総会のみ参加は、会費不要。

○懇親会への参加は、四月

二十二日（金）までに、支部長

に連絡し、会費は支部長に直接

払い込んでください。

○支部長は、懇親会費を支部で

一括して、四月二十八日（木）

までに「払い込み取扱票」に

て、事務局宛にお振り込みくだ

さい。

○支部に所属していない地方等

の会員の方は直接事務局までご

連絡下さい。（四月二十二日

（☎〇三―五八一四―五六一五）

まで）

○懇親会費を払い込んだ後に、

やむをえず、取消された場合は

申し出の日によって返金額が異

なります。あらかじめ、ご了承

ください。

生き生き人生 元気の出る集い

会員研修会のご案内

『各支部の教育活動の発表』

☆ 5月13日（金）定期総会の後

☆ 時 間 14：20～15：15

☆ 発表支部及び内容

目黒支部……………支部の教育課題研修会

日南支部……………支部の約10年間の教育懇談会

千葉中部支部………童謡・唱歌

生涯学習部

東京都教育委員会
中井敬三教育長を
多田丈夫会長が表敬訪問

平成28年2月10日、多田丈夫会長が東京都教育委員会教育長室へ中井敬三教育長を表敬訪問して参りました。

中井敬三教育長は新しい教育委員会制度に変わって、初めての教育長として平成27年4月1日に就任されました。

中井教育長は、教育長室で多田会長を迎えていただき、相互に挨拶を交わされました。多田会長からは、会長に就任したご挨拶とともに、東京都退職校長会の紹介、特に、平成25年に創立60周年を迎え制定した「国際都市東京の教育に寄与する」に始まる綱領や、東京都教育委員会からの委託事業に対する取組、会員の状況等について説明いたしました。

中井教育長からは、東京都退職校長会の東京都教育委員会の



事業への協力に対する謝意と会への期待を敬意を込めてお話くださいました。

短時間でありましたが、真摯な会話が交わされ、親交を深められました。

この日、日頃からご指導いただいている人事部企画担当部長鈴木正一氏と人事部職員課課長代理 阿部正克氏が同席されました。

なお、本会からは、宇津木副会長、三辻事務局長が同行いたしました。

(文責 副会長 宇津木 順二)

湯島の動静表

―本部の活動報告―

2月	
1日	総務部会
〃	生涯学習部会
2日	福利厚生弔意事務
3日	正副会長会
〃	会報部会
8日	人材バンク運営委員会
12日	短歌クラブ
16日	企画委員会
23日	会計部会 (終日)
24日	正副会長会
29日	人材バンク運営委員会
3月	
1日	福利厚生弔意事務
2日	会報部会
7日	生涯学習部会
9日	正副会長会
〃	会報部会
11日	短歌クラブ

14日	人材バンク運営委員会
15日	企画委員会
16日	会計部会
〃	会報部会
22日	会計部会 (終日)
23日	会報部会
28日	総務部会
〃	人材バンク運営委員会
29日	正副会長会
4月	
4日	支部長会
5日	福利厚生弔意事務
8日	短歌クラブ
12日	正副会長会
〃	生涯学習部会
13日	監査会
14日	総務部会
18日	評議員会
21日	企画委員会
26日	福利厚生部会
27日	正副会長会
〃	会計部会

東京都教育庁幹部との懇談会

開催日 平成二十八年一月二十二日(金)
会場 都庁第一本庁舎 教育委員会室

この懇談会は本会の目標の一つ「東京都の教育を支援する」を的確に達成するために都の教育の現状を把握する趣旨で、毎年実施していただいています。

基礎学力向上の施策の進展について

◇指導部義務教育指導課
統括指導主事

毛利 元一 様

「全国学力・学習状況調査」と「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を併せて分析をしますと、下位層が減り上位層が増えるなど、基礎・基本の定着が図られ基礎学力が向上してきていることが分かります。

また、児童・生徒への質問紙調査では、「授業がよく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答している割合は、教科によつて差はあるものの上昇しています。算数、数学では、毎年上昇し、小学校では90%を超え、中学校では80%に迫っている状

況であり、児童・生徒にとつて分かりやすい授業へと改善が図られていることが分かります。

東京都では、平成27年度から全員が身に付けてほしい問題を「習得目標値」とし、学習指導要領の目標が達成されれば解ける問題を「到達目標値」として設定しました。この指標を基に、習得目標値以下の児童・生徒が減るようにするとともに、到達目標値を達成する児童・生徒が増加するように、きめ細かく継続的に状況を把握していきます。

採用前実践的指導力

養成講座について

◇教職員研修センター

企画部企画課長

酒井 泰 様

本講座の実施にあたり、ご協力をいただき感謝申し上げます。退職校長会の皆様には、学校体験における講師として、四月から教壇に立つ受講者のために、指導に関する様々な不安を解消する内容を講義に入れていただ

くなど、ご尽力をいただいております。今後とも本講座の充実を図ってまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

東京オリンピック・パラリンピックに向けての教育施策について

◇指導部オリンピック・パラリンピック教育推進担当課長

熊谷 恵子 様

都教育委員会では、本年一月十四日に策定した「東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針」に基づき、平成二十八年度から、オリンピック・パラリンピック教育を都内全公立学校で展開いたします。それに先駆け、今年度は推進校を六百校指定し、実践研究を行つてまいりました。今後、これらの取組の中から効果的な事例について、周知を図ってまいります。

また、今年度末には、オリンピック・パラリンピックに関する基礎的な内容を発達段階に応じて掲載した、校種別の学習読本を児童・生徒に配布するとともに、映像教材五巻セットを全校に配布いたします。

東京の子供たちが、二〇二〇年に行われるオリンピック・パ

ラリンピック競技大会の素晴らしいさを体感するとともに、一人ひとりの心と体に人生の糧となるかけがえのない財産を残せるよう、オリンピック・パラリンピック教育を進めてまいります。

外国語（英語）教育の充実、推進について

◇指導部国際教育推進

担当課長

瀧沢 佳宏 様

中学校英語教育において「確かな学力」を身につけるため効果的な少人数習熟度指導を推進します。また、グローバル人材の育成を推進する高校10校を、平成二十七年より三年間「東京グローバル10」として指定し、コミュニケーション能力・異文化への理解や国際貢献への意欲などを高めていきます。また若手を中心とした外国語（英語）科教員一四〇名を英語圏三ヶ国へ三カ月間派遣させ、英語教授法を学ばせます。



業務改善・基金検討 委員会から報告(2)

委員長 宇津木 順一

報告(1)では、会則について、組織運営を中心に業務改善の視点から見直し検討した内容を報告した。

検討委員会第5回(12月)から第6回(1月)の会議では、会則に付随する内規について、業務改善の視点から検討した。その内容の一部を報告する。

○会計に関する内規について

高齢者の会費納入に関して、「終身免除」、「軽減」の規定があるが、現在、該当者は極めて限定的になっており、有名無実の内容になってきている。会費の「免除」、「軽減」については、会員減少の中、予算上厳しい面もあるが、永年貢献されてこられた高齢の会員が永く会にとどまっていたことが、会の目的、趣旨からも大切であると考え、次のように改正することを検討した。

①「満95歳を超えた会員は、会費を免除する」、②「満90歳を超えた会員は、会費を千三百円に軽減する」とする。

なお、「会費を特別に免除することができるとする規定に關しては現行通りとする。

○基金に関する内規について

現在、建物の一室を賃借して本部事務局を置いているが、いつまでも借用できる保障はないと考える。自前の土地建物を所有するのは難しいにしても、建物の1室を所有し、事務局を置くことなども構想する必要がある。

このことを踏まえ、基金及び益金の使途を明確にするため、使途について次のように改正する。

①「本会の事務局を置く事務所の設置の経費に充てる」、②「その他、本会の目的達成のために必要な経費に充てることができるとする。

また、基金管理委員会の委員構成は、外部の目を加えるとい

う観点から、現行委員の他に、評議員、支部長から各1名を加え、7名とする。

○慶弔等に関する内規、○役員選考委員会、会長・副会長候補者選考基準に関する内規については、検討中である。

なお、内規の位置づけ・用語等については成文化するところで検討する。

今後の検討課題について

―検討委員会の会議から―

今後の検討課題であるが、
第一は、東京都退職校長会の本部の役割を支部との関わりの中で明確にすることが大切である。直接会員の皆様とつながっている支部の役割と、支部を支える本部の役割について検討し、都本部に求められる事業を明確にし、事業の精選を図る必要があると考える。

第二に、会の財政の健全化である。現在、会の運営に当たっては、会員の会費だけでは賄え

ない状況にあり、一部は寄付金収入を充てている。会の性格から会費内で運営できる体制が適切であると考え、そのためには会議の効率的な運営に努めるなど、運営経費の一層の縮減を図る努力が求められる。

第三は、会員確保の課題である。このことについて、従来から大変な努力がなされているが、減少に歯止めがかかっていない状況である。

従来からの新会員加入勧誘の働きかけと同時に、定年退職5年後の未加入者の勧誘を組織的、計画的に行うなど、勧誘の一層の工夫改善が必要である。

併せての課題は、退会防止に向けた対策である。退会の実態などについて、現状を把握し、課題意識をもって実態に即した対応を図る必要がある。

以上が、今までの検討会議の活発な議論を通じて浮かび上がってきた、今後、検討すべき重要課題であると考えられている。

各

部

だ

よ

り

『新会員の加入を願って』

総務部長 林 和明

新部長による部の活動がスタートし、部員のご協力により、総務部の活動が着実に進められた。

○総務部の活動の第一は、会員の皆さまのお力添えを得ながら、新会員を一人でも多く増やすことである。そのために、平成二七年三月退職された校長先生方、並びに、五年間の嘱託期間が終わり、本年度まだ未加入の校長先生方の名簿一覧と、二八年度三月末退職予定校長の名簿一覧を事務局の協力を得て、何度も校正を重ねて作成した。また、総務部員全員でこの三月退職予定者それぞれに年賀状を差し上げた。

○新会員獲得のためにご協力くださる支部長さん方にお願ひするための資料の袋詰め等も支部

長会の前に数度にわたって行った。

○さて、会員の皆様に再々度のお願ひですが、未加入の方がおられましたら、是非本会への入会をお勧めくださるようお願いいたします。

会計部の活動

会計部長 安達 勉

本年度の会計部は、会計担当副会長の私が、部長を兼務する形で変則的に出発することになりました。そうした関係もあり、又、多田会長のご配慮もあり、前会計部長で現事務局長の三辻局長が、会計事務全般にわたり従事して下さい、節約を基本とした予算の執行を行うことができました。心より感謝いたします。

又、副部長の小久保氏は長年会計部に所属し、ここ数年の会計部の推移を把握していて、会

計簿の最も基本となる月々の「出納簿」の整理、管理をし、私どもに、適正且つ明確な方向を示して下さい得難い人材であります。

それから、各部員は、支払い明細書や領収書のチェックや支部長会等対象が多数の会合の交通費の支払い業務に従事し精力的に活動しました。

一般会計の収入の大半は皆様から頂く会費です。十二月の中間報告で数支部が未納というところが分かり一月の段階で支部長先生宛て未納の件をご連絡させていただきました、すべての支部から納入いただきました。支部長先生には大変失礼なお願ひをいたしましたのに直ぐに対応して下さい感謝申し上げます。

さて、会費の納入状況を観て参りますと多くの支部で、会員数より会費納入人数が下回っております。これは、各支部それぞれに様々な事情があつてのことと推察いたします。

予算編成の際、会費納入人数

の見積もりが甘く実際には数十名少なかったこともあり、収入が予算額より減少してしまいました。

来年度の予算編成の際、会費納入人数をさらに内輪に見積もるようにしなくてはならないと痛感する次第です。

—おしらせ—

東京都退職校長会写真クラブ (TKC)

第 77 回

写真作品展

◎会場 なかの ZERO 西館ギャラリー (1・2 階)
(旧 中野文化センター)

JR・中野駅南口・線路沿いに新宿方向へ 8 分

●会期 平成 28 年 4 月 8 日 (金) ～ 4 月 14 日 (木)

●開場時間 午前 10 時～午後 5 時 30 分

但し 8 日 (金) は 13 時から。14 日 (木) は 14 時まで。

『心を伝える広報活動』

会報部長 和田 弘

会報は、本会の活動の様子を会員の方々に詳細にお伝えし、また、会員相互の連携と交流とをより緊密に図ることにあると考えています。また、本会の活性化を図る一助を担っているとも確信しています。

平成二七年度は新理事が二名加わっての新組織で発足し、会報は一九〇号を七月に発行し、十月・一月・四月と四回、例年と同じ回数の発行をしました。

会報部は会合の多いほうかと思えます。会報の発行ごとに少なくとも四回の会合を開きました。まず、第一回の会合で誌面の割付け等を行い、主として何を掲載するかを検討をします。割付けが決定次第、原稿の依頼状を発送します。第二回は未着・到着原稿の確認と校正を行い、第三回以降は校正が主となります。

○一九九号の主な記事

※巻頭言（多田丈夫新会長）

※初めて「目次」を掲載。

※定期総会報告

※第一回会員研修会報告

※支部日より

（千代田・中央・千葉南）

※湯島の動静（本部の活動）

○一九〇号の主な記事

※五団体との教育懇談会

※支部日より

（北多摩北・葛飾・町田）

※写真クラブの活動

※新会員の声

○一九一号の主な記事

※関ブロ〈茨城〉大会報告

※第二回会員研修会報告

※クラブ活動報告

○一九二号の主な記事

※28年度・定期総会案内

※27年度・各部・各委員会等の事業報告

※地方会員の声

『生き生き人生を目指して』

生涯学習部の活動

生涯学習部長 齊藤 徳蔵

本年も多くの会員の先生方のご指導、ご協力をいただき、楽しく、充実した活動ができた。生涯学習部の主な活動はクラブ活動の充実・活性化の支援、年二回の会員研修会、生涯学習部企画運営の「東京新散歩」の実施等である。

九月・三月にクラブ委員会を実施した。魅力あるクラブ活動運営、会員確保等について真剣に討議された。ご高齢で、会場に來られない方に、作品を郵送して貰う参加方法、他の団体と一緒に練習を行う等工夫された活動方法の紹介が印象的だった。第一回会員研修会は五月十四日の総会後に実施した。「受託事業」の実践報告を人材バンクアドバイザー、帆足文宏様・吉川温子様より報告があった。

第二回会員研修会は十一月

十八日に「生き生き人生を目指して・水墨画入門」のテーマで水墨画の実技研修を行った。

講師には絵画クラブ委員長東條康永氏をお願いした。

水墨画は未経験の人が殆どだったが東條先生の巧みな指導があり、参加者全員が真剣に取り組んだ。立派な作品が次々に出来上がった。五月十三日（金）の総会会場に展示予定である。

生涯学習部企画運営の「東京新散歩」は昨年からの試みで、今回は二回目である。講師に財団法人斯文会岩城公子学芸員・中野支部長緒方良子氏をお招きして、湯島聖堂、神田明神を見学した。

岩城学芸員のご案内で一般の人には見られない物、施設をたくさん見せていただいた。詳しい説明を受け、新しい発見が多かった。



『心のこもった

福利厚生活動を』

福利厚生部長 守屋 龍男

福利厚生部は次の4項目について取組んでいます。

○会員の親睦と互助に関すること

定期総会後の懇親会や新年祝賀懇親会の運営を通して、会員相互の親睦を図っています。この活動については各支部長のご協力により、毎回盛会で素晴らしい成果が収められていることに深く感謝申し上げます。

○会員の慶弔に関すること

長寿会員の方（白寿・米寿・喜寿）の調査とささやかなお祝いの品の準備や「全連退からの寿詞」に記名をしてご本人にお渡ししています。

また、物故会員への香典等を当該支部長宛に発送しています。（毎月第一火曜日にその事務を行っています）

○叙勲に関すること

春・秋叙勲及び高齢者叙勲の受章者を調査し、会報等でお知らせしています。

ただし、高齢者叙勲については、各支部より、報告のあった方のみ会報に掲載としています。高齢者叙勲を受章された会員は必ず当該支部長への連絡をお願いします。

○年金に関すること

毎年、退公連との合同研修会等で、社会保障制度（年金・医療・介護等）に関する事柄を学んでいます。有益な情報等は会報でお知らせいたします。

今後は、ご高齢の会員の皆様に、より一層目を向けた活動を考えていきます。



書物雑感

『東京近辺 里山や丘陵を歩く』

守屋 龍男 著

各支部のフィールドワークが近年一層盛んになっている。その活動の手助けとなるような会員著作の書物に出会った。

東京近辺77コースがJ・R中央線沿線、小田急線沿線などと各沿線に沿って目次のところで大別されており探しやすい。

詳細な行程時間があり自分で企画する際の参考となる。時間は一時間半から二時間半が大半で挑戦しやすい行動時間である。手作りの地図も大変役立つ。

里山や丘陵の自然は勿論、その地の歴史にも触れる。

文の運び方には一つの特徴がある。先ず全容を説明するリード文がある。例えばこうである。『神奈川の名山、大山の山麓には水田や畑、ウメやクリ、カキの果樹園が点在し、のどかな

里山風景が広がる。その中に薬師様と呼ばれる日向薬師や、良質の強アルカリ温泉で知られる七沢温泉郷がある。

秋の彼岸の頃にはそこかしこに咲くヒガンバナに赤く染められる。

今回は9月下旬にこののどかな里を森林浴も兼ねながら、ゆつくり歩いてみた。』

このリード文だけで全コースを読み取ることもできる。具体的なガイドはこの後に続く。そのガイド文が、また楽しく詳細で紀行文学を読んでいくようである。この歩きながらの観察描写が実に素敵である。

たくさん草花や樹木、鳥、川、その川に棲む魚、山や峠、そして古刹、古道、加えて今の生活の様子、どれも勉強になる。さながらフィールド博物館である。散策意欲を大きく膨らまされる書と感銘。

（文 会報部 梅津）

期待される支部長会の役割

「都委託事業「採用前実践的指導力養成講座」

を通じてー

昨年の7月27日（月）に開かれた第一回の支部長会に今年度から都の委託事業である「採用前実践的指導力養成講座」に参加する小中学校の講師推薦に関して、採用前研修事業受託委員会（以下、委員会）から協力依頼をさせていただきました。その理由は、多数の講師を要するこの事業には、「本会の連絡と組織強化」を任務とし、日頃から当該支部を統括している支部長の先生方のお力を必要としたからであります。実施に際し、コース別・「地区別指導講師の推薦」事務等で大変ご苦勞をおかけしましたが、関係した各支部長の全面的なご協力と強いご推薦をいただき十分に講師の充足ができ本番に備えることができました。誠に有難うございま

した。まさに支部長会が委員会の後ろ盾となり、円滑な事業推進に一役買っていたきました。ところで、3年目を迎えた今年度の事業に参加した4校種の講師の総数は三二八人でした。その内、事前説明会、全体講座及び学校訪問（学校体験）の3部門に関係した講師の総参加人数は、小学校六六〇名、中学校四三五名、高等学校三四一名、特別支援校一六八名、総勢一六〇四名となりました。これらの数値からも全都的な大事業であり、関係された会員の皆様と支部長の先生方の力の大きさを知ることができます。今回の取り組みは、5月の総会時に示された本年度の活動方針である、「事業の透明性を図り、本部と支部との組織的、一体的な事業

を進める」を具現化したものの一つと考えます。委員会としても、今回の取り組みはもちろんのこと、今後とも支部長会との意思疎通と協力関係を強め、委託事業の円滑な推進を図っていく所存であります。会員の皆様の理解と協力を切望すると共に、支部長会の一層のご協力を期待しております。

（文責 委員会）



高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計3名（敬称略）
（平成28年2月1日までに支部より届出のあった方々）

3名

小安 昭子（北多摩西部）

吉岡 晴子（町 田）

岩田忠次郎（埼 玉）

―採用前研修事業受託委員会より― 手ごたえのある

「採用前実践的指導力養成講座」が無事終わる

「採用後の教員としての職務を円滑にできるように、学級経営等に必要実践的指導力を身に着けること」を目的として始められた受講生約二千名を対象とした平成27年度の「採用前実践的指導力養成講座」は、平成28年1月13日(水)のBコース・学校体験をもって13日間の全日程を無事終了いたしました。これまで大過なく、計画通りに業務が遂行されたことは、都教委をはじめとして、各区市教委並びに関係する小中学校及び都立の協力校との連携の成果であると考えます。本部として関係各位に心から御礼申し上げます。

(1) 支部長会の支援に感謝

今年度の協力校は小学校90校、中学校58校、高等学校49校、特別支援学校27校の総勢二二四校でした。特に、協力校の校長先生方におかれましては校務ご多忙の中、大変なご苦勞をおかけいたしました。さて、受託事業推進に対する本部の悩みは、目的に賛同し、組織体制を整えたものの、必要講師数四四八名を確保することでありました。今年度は小中学校の講師充足に一役買っていただくとうと支部長会に講師推薦の協力依頼をさせていいただきました。初めての試みのため43地区の支部長は依頼内容の理解に時間を要しましたが、結果として快く引き受けていただきました。また、平素から支部をくまなく把握されている関係で、講師推薦に大きな力を發揮していただきました。関係の各支部長のご配慮とご協力に心から感謝申し上げます。

(2) 円滑な運営に終始した本部

ところで、委託事業を推進するための運営母体は、4校種の代表13名で組織された「採用前研修事業受託委員会」が担当いたしました。委員長を中心に4校種ごとに運営責任者を置き、所管する都教委(都教職員研修センター)とは、緊密な連携を執りながら、盤石で円滑かつスピーディーな業務運営に徹しました。さらに、各校種ごとに組織体制を整え、必要に応じて、都教委との合同会議や校種ごとの集まりを計画し、情報を共有しながら、所期の目的を達成しようとして業務推進の任を果たしました。特に、学校体験時の受講生や講師の先生方一人一人の一日の動向については、安全配慮を第一に正確な情報収集と整理にも務めました。この事業には総勢約二千五百名以上の関係者が参画し、都内全域の学校を綿密な計画に沿って行動いたしました。まさに、東京都ならではの画期的な事業であり、退職校長会にとっても誇れる仕事の一つとなりつつあります。今後ともこの事業が継続する限り、都教委の指導・連携のもと、安全に心を配り、関係する部署の協力をいただきながら、将来の東京都の教育を担う受講者のために、円滑かつ効率的な運営を心

掛けていく所存であります。

(3) 理解が深まる養成講座

さて、4校種の退職校長会から推荐された四四八名の先生方に指導講師としてご活躍いただいたこの事業が無事終了した要因は、一つに、3年目を迎え、約6割の先生方がすでに業務をご経験されていたこと。二つに、この事業への理解の深まりと先生方の熱意が極めて大きかったこと。三つに、本部が用意した「講師の指導ガイドブック」が適時・適切に有効活用されていたこと。さらに、全日程が天候に恵まれたこと等であつたかと考えられます。ここに、この事業の更なる充実と関係各位の理解と協力が一層深化することを期待するものです。

終わりに、この事業の企画に腐心された都教委並びに教職員研修センターの諸先生方に感謝申し上げます。今後とも、一層の連携強化をお願い申し上げます。最終報告とさせていただきます。

(文責 多田 丈夫)

―人材バンク受託事業特別運営委員会報告― 来年度に向け、改善の余地を残す人材バンク事業

第2回外部人材活動連絡会が1月27日（水）午後2時から都教職員研修センター一一一研修室で開催された。年度当初に教育長から委嘱された大学関係者を含むアドバイザー諸氏にとっては、本年度最後の連絡会となった。今回の連絡会の特徴は大学に勤務するアドバイザーからの報告と訪問地域10地区に分かれての地区別協議会を設定したことにある。さて、この度の連絡会では、東京女子体育大学



地区別協議会の様子

に勤務する桑原利夫氏（江東区）と洗足学園音楽大学に勤務する小林 博氏（文京区）の二人から大学での具体的な活動が報告された（P12に詳細を掲載）。また、この日の10地区に分かれた地区別協議会では、一年間の訪問活動に関して、各地域のアドバイザーから貴重な意見が出された。その貴重な記録から①良かった点、②困難だった点、③今後、改善すべき点、について集約し、以下にその概要を報告する。

1 良かった点

①年度当初に区市教委を訪問したことは、訪問地の教育事情をアドバイザーが把握でき、訪問を効果的にした。また、区市の教育方針や実情を事前に知ることは訪問に役だった。②区市教委を訪問して、事前に学校訪問の趣旨を説明しておいたので、校長会、副校長会への連絡が行き届いていた。

特に、指導室長が趣旨をよく理解してくれていた。

③ブロック別の校長会や校長会長校を訪問することで、直接、生の声を聴くことができた。

2 困難だった点

①管理職は人材バンク事業をよく理解しているが、一般の教員にはまだ理解されていない。授業やクラブ活動の指導で教員の要望を吸い上げる必要があるようだ。

②校長会（小・中）では、説明時間が5分～7分程度で、十分な説明が出来なかった。また、アドバイザーの居住地と担当地が異なっていたため、対応に苦慮した。

③地域の人材を活用する学校が多く、都の人材バンクまで手が届かないことが多い。

3 今後、改善すべき点

①同じPRを繰り返すのではなく、〈人材バンクニュース〉等、実例を報告できるようなケースや参考となる資料を都から出してほしい。訪問の度に資料が同じでは説得力がない。②各地区の登録状況やボランティア活動の実績を情報とし

て示してほしい。該当者を見つけやすいようにすべきだ。

③校長会、副校長会だけの訪問には無理がある。地区の学校訪問を重視した方策が効果的である。さらに、新任の校長校、副校長校に限って必ず訪問することも考えてほしい。

④着実に制度の理解度は進んでいる。そのためにも、初回の訪問時には、必要な資料を十分に用意する必要がある。また、室課長会でも人材バンク事業についての広報をしてほしい。

⑤ボランティアの有償、無償の問題は、常に話題になる。また、この課題に関する都と区市との取り扱いも大きく相違している。せめて、交通費ぐらいの費用弁償は考えられないのか。

さて、来る3月末をもって、都から受託した今年度の人材バンク事業が終了する。来年度に向けて、よりよい改善点を見つけて、周到に計画することを約束し報告とする。

（文責 委員会）

大学への普及広報活動 実践報告

◎実践報告

東京女子体育大学

桑原利夫先生

冊子「人材バンク募集案内」

本年度の大学への普及広報活動では、教職課程を置く18大学18名の先生方にアドバイザーを依頼した。担当の先生方に対しては、①東京都が進める人材バンク事業の説明、②学生への人材バンク登録の促進、③登録した学生の活動例の紹介、④事業に参加したメリット、デメリット等の分析をお願いした。

活動の実際は、担当する講座の中で資料説明をすることで事業促進に協力したり、大学の同僚に説明の機会を作ってもらったり、講義外では大学内の所定の場所に資料（パンフレット）を置いて、促進を図っているケースが多いようである。

最近の大学は、出口指導が積極的になっている。その意味からも大学への普及広報活動を拡大する余地があると思う。

をもとに担当授業の学生対象に説明を行った。（毎回講義終了

五分前にその日の授業の質問タイムを設けていたので、今回は特別に10分に延長して本説明タイムとした）。配布の冊数が50冊と限定されていたため、説明時の冊子は登録の意志がある学生にはその場で配布（10冊程度）し、残りは回収。改めて検討してみたいという学生には、キャリア支援センター（支援センター）担当者には予め了解済み）の窓口を設置してもらう予定を伝え、個々で取りに行くよう指導した。

説明の内容は、主に募集概要・活動内容例・登録申込書の確認と記入要領とした。本大学は体育系の学生であるので、部活動やスポーツ指導が相応しいことをおさえながら、児童・生

徒の放課後、土曜日の補習・補講指導や特別な支援が必要な児童・生徒のサポート指導も担任教師等の指導法や児童・生徒理解に役立つことを伝えた。

説明後の学生の主な反応としては、現在区市教委が募集している同種の活動支援（有償）を既に行っているという実態、ボランティア活動（無償）は理解できたが、何らかの特典はないのかという質問等があった。

洗足学園音楽大学

小林 博先生

人材バンク事業について、教職センター担当職員に説明し、理解・協力を得たのち、人材バンク募集案内の冊子を教職センターにある受付カウンターに配架していただくとともに、教員採用試験講座受講生のおよそ30人に配布した。

また、学生の一般的な教育ボランティア活動に関する現状や意識をとらえる趣旨で、一年か

ら三年までの83人を対象に記述式によるアンケート調査を行った。

その結果、各校種の学校や福祉施設等で、リトミック、演奏会、部活動での音楽指導などのボランティア活動を行っている学生は16・3%であった。現在は行っていないが、機会があれば是非参加したいと考えている学生は、57・5%であった。これらを合計すると、73・8%となり、多くの大学生がボランティア活動に参加することへの関心が高いことが分かった。その理由として、直接、児童・生徒との交流ができ、実情を知ることができるとことや自分を生かし高めることができるなど、様々に有効で大切な活動であるという認識を持っていることが感じとれた。

この事業は、来年度も継続して行う予定である。更なる充実を図っていきたい。

（文責 苗村 崇伶）

会員だより

辺境の地から

北海道北見市 橘 美恵子

住所を東京に残したまま、郷里に戻って四年が過ぎました。市の中心地から車で約二十分の無人駅になった「辺境の地」に私の住家があります。

人口一千九百余りのこの小さな街には、明治三十一年十月開校の小学校と昭和二十二年開校の中学校があります。両校は私の母校です。他、保育所も一園あります。市の中心地には私立幼稚園が十四園ありますが、残念ながら公立はありません。

この街の日常に心とむ出会いはあります。街を歩いていると見知らぬ

小・中学生から極自然に挨拶をされます。当初は少々驚きましたが、思わず互いに顔がほ



ころびます。

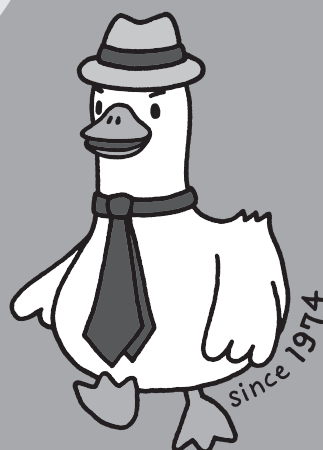
今年二月に、六十七年振りに小学校（児童数九十名）を訪ねてみました。教頭先生の話から地域と学校との連携・教師間の連携（全児童を全教師で指導にあたる）など、小規模校ならではの行き届いた学校経営を伺い知ることが出来ました。成る程と、街で出会う子どもたちの、自然に挨拶をする姿が納得できたように思いました。

この辺境の地にも、五・六月には、絵の具を散りばめたように花々が咲き始めます。今年も保育所の園児たちが、わが家の庭の花々に会いに来るところを今から心待ちにしているところですよ。

殺伐な世相に心痛むことの多い昨今に、この辺境の地で、穏やかな日々甘んじて生活をしていることが勿体無いように思えてきます。

外部との積極的な関わりも無く、これぞと言って報告することの無い近況です。辺境の地における生活の一端をお知らせいたしました。

選ぶなら、がんの治療に
幅広く対応した
がん保険。



はじめてダック

通院・入院・抗がん剤・診断一時金

新 生きるための
がん保険 Days

女性特有の
がんにも
手厚い

新 生きるための
がん保険 レディース Days

すでにアフラックの
がん保険に
ご契約の皆様に

新 生きるための
がん保険 Days+

■募集代理店（アフラックは代理店制度を採用しております）

三泉トラスト保険サービス株式会社

〒101-0054 千代田区神田錦町3-11-1

☎0120-357-212 FAX 03-3233-6754

〈引受保険会社〉

「生きる」を創る。

Aflac

◎商品の詳細は「契約概要」等をご覧ください。

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
東京第一法人営業部
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル19F
Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

AF広宣課-2015-0015-1506023 4月7日

我が健全育成 今昔

長野県 小林 時平

平成九年N区で退職し、区生活指導相談員としての任務に就いた。主に小学校二十数校の校長室を訪ね、問題行動対応・生活指導上の課題を聞いて回った。以前世話になったC市の「非行ゼロを目指して」服務規程「研ぎ澄まされた人権感覚の確立」の取り組みが役に立った。

二人で分担した年もあったが、一人で全区を担当し、セーフティ教室・授業公開参観を含めると、年間訪問回数が一五〇回になった年もあった。

当時神戸少年殺人。大阪付属小学校での暴漢侵入殺人など痛ましい凶悪事件が発生した。

平成十六年から退職警察官を任命し、スクールサポーター制度ができた。担当者は幼小中高を巡回、積極的に安全指導、非行防止指導を行っていた。

担当者と訪問時やセーフティ

教室で出会い、問題意識の共有もでき、時々労わられもした。

「生活指導は足で」を胸に、訪問し、聞き取ったことは再発防止に活かると、常に整理した。十一年は瞬く間であった。

* * *

今は浅間山を背にして暮らしている。そして、佐久市の実家から耕作放棄寸前の畑を託され、野菜を作っている。住まいとは十八キロ離れているが、雪解け後、約八か月汗を流している。

近年の異常気象＝早魃・激しい風雨には悩まされる。さらに病虫害の発生。早期発見・早期対応の大切さを痛感する。

大きさや形はともかく、自給自足の貴重な野菜である。薬をあげた物は好まない。

にわか百姓、野菜の健全育成はままならない。しかし、今年も三十種類は作る計画である。

* * *

畑で作業していると、時々携帯電話が鳴る。実家から兄を見

なかったかと義姉の声。兄は認知症である。

数年前、九時間も徘徊し、市や議会の幹部・警察・消防・地域の人たちの捜索で助けられた。

最近は遠くには行かないが、目が離せない。デイサービス・老健も利用している。実家は老々介護の日々である。

子どもの頃は近くに診療所や商店もあり、主要駅につながるバスも東西南北に走っていた。今はどの家も、買い物・通院で悩んでいる。

SOSの連絡が入る前、畑の帰りに寄ったり、時間を作って御用聞き・廃棄物回収・庭や畑の草むしりなどに外向くことにしている。

介護は大変である。これの課題は、近々自らの課題である。



トピックス

新宿支部会報58号より

長生きしたい理由

松本 喜代子

家の改修、断捨離など終活をしています。著名なコンサルタントの本を参考に家具や食器、本などは潔く献品や廃棄できましたが、衣服や宝飾品は「ときめく」ものばかりでなかなか手放せません。

主治医に「死ぬまで元気になりたい」と頼み呆れられています。が、元気で長生きして愛着のある衣服や宝飾品を自分で使いたいのです。

随筆

等々力 肇

齊藤茂吉随筆集を讀んでいる。「茂吉歌集」、長男茂太の「茂吉の周辺」も随時参照している。随筆集には多数の写真が挿入されている。「ドナウ源流行」は名文の評価が高いが、ドイツ語の地名がそのまま挿入されているので、少々読み辛い。「周辺」には茂吉の歩んだ土地を尋ねる文章があり、興味深い。茂吉が癪癪（がくがく）もちで家族が閉口している。

我が清水家のルーツを探る

— 最近の研究から —

茨城県水戸市 清水 文朗

いつの日か定かではないが、我が家に紀州和歌山から移ってきて勝田市高野に城を構えたという言い伝えがある。その城の名は清水城（別名高野城）という。初代城主は、清水但馬守正重とされる。築城は戦国時代、元亀末から天正末と言われる。城の形は、本郭に但馬守正重と長男の大和守正忠、西郭には二男の彌兵衛正孝、東郭には三男の源衛門正仍と、三郭での防禦である。郭内には、守り神の白旗八幡宮と、菩提として真言宗青龍寺がある。勝田市史によると、その頃、近辺では最も強大であったといい、その城を、高野の内城としていたので、次にその見取り図を掲げておく。

清水氏は、同じ清和源氏出の佐竹義宣に何時しか仕えたが、慶長七年義宣が家康より秋田に



移封されたことにより、長男の大和守と共に伏見より水戸に寄らずに義宣の供の者九三騎と共に秋田に向ったという。

その後、残された三男正仍は水戸徳川家に仕え、与力百石。以後は、江戸城奥女中増井病氣付添など、主に御殿医としての職責を果たしている。

また、大日本史の最後の編修であり、宮内庁臨時御歴代史実考査委員会御用掛（奏任待遇）を勤めた祖父清水正健（贈位は従六位）もこの系列に入る。

現在、原稿一万枚ほどの中から一端を述べた次第である。

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談

どんなに些細と思われることでも
お気軽に

ご葬儀

寝台自動車、火葬場
式場、供花・枕花の
お手配

ご法事、
葬儀後の
お手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎ 0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可（五）第3066号
株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索

<http://www.tomin-gojyo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

(平成28年3月21日届出現在)

物故者												謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます									
氏名	年月日	支部名	校種	年齢	頁	氏名	年月日	支部名	校種	年齢	頁	氏名	年月日	支部名	校種	年齢	頁				
西川 一夫	27・5・24	千葉西中	83	115		多田 彰男	28・1・31	杉並小	90	29	58	奥山 純子	28・1・21	埼玉小	72	126	平田 満穂	28・1・19	板橋小	82	36
圖子 岩雄	27・7・12	板橋高	90	38		木村 將	28・2・1	世田谷小	89	21		後藤 公男	28・1・26	八王子小	94	58	飯島 悠蔵	28・2・3	武蔵野三鷹小	86	1
時任 信男	27・10・11	武蔵野三鷹小	91	74		金田 義直	28・2・1	武蔵野三鷹小	83	74		磯 周二	28・2・1	足立小	100	47	上田 憲二	27・11・25	日南小	67	69
村松 徹二	27・11・23	八王子小	87	61		中野支部 田中弘志						吉田 宗茂	27・12・13	板橋高	86	35	山崎 誠也	27・12・17	板橋中	83	35
吉田 宗茂	27・12・13	板橋高	86	35		佐保 守敏	28・2・10	世田谷小	82	19		長澤 常夫	28・2・15	杉並中	90	29	田中 久子	27・12・17	板橋小	88	35
上田 憲二	27・11・25	日南小	67	69		飯島 悠蔵	28・2・3	武蔵野三鷹小	86	1		滝上 文雄	28・2・11	町田高	64 平27 16		吉田 博	27・12・31	武蔵野三鷹中	93	74
山崎 誠也	27・12・17	板橋中	83	35		佐保 守敏	28・2・10	世田谷小	82	19		櫻井 三夫	28・2・18	武蔵野三鷹小	90	73	財部 豊	27・12・31	世田谷小	92	19
吉田 宗茂	27・12・13	板橋高	86	35		磯 周二	28・2・1	足立小	100	47		森川太喜治	28・2・24	大島小	83	107	池田 清音	28・1・2	北多摩中	80	87
上田 憲二	27・11・25	日南小	67	69		中野支部 田中弘志						菊池 邦友	28・3・3	練馬小	89	44	赤司 修子	28・1・18	町田小	82	19
山崎 誠也	27・12・17	板橋中	83	35		吉田 宗茂	27・12・13	板橋高	86	35		鶴岡 重義	28・3・6	狛江小	85	92					

応募コーナー

俳句

寒の餅切るや老いの日亦新た
土筆摘む土筆のような子らの顔
年早し一日は長き年惜しむ

杉並支部 岸上 修

短歌

いつの間に乙女となりて白セーターの
かすかに揺れる胸のふくらみ
小学校巣立ちて三月白セーターの
胸ふくらみし乙女となりぬ
いつの間に男児の声の変わりたる
吾の身長と同じになりたり

中野支部 田中弘志

午年の君が蒐めし置物は
世のありとある馬の像なり

師の道は学究一筋を貫ける

「水辺の馬」論者逝き給ふ
冥界は十萬億土の遥かなり

先達君の旅路幸くを

府中支部 和知光儀

作品募集

短歌・俳句・川柳（ひとり三
首まで）・コント（百字程度）
等を葉書でお寄せください。

送り先 〒113-0034

東京都文京区湯島4-12-3

日公連ビル5F

東京都退職校長会 会報部

編集後記

三千五百名弱の人数の都退職
校長会をひとつにまとめること
は、大変に難しいことです。そこ
で様々な工夫がされています。そ
のひとつが年四回発行の会報です。
遠くに離れていても、会報を通し
てお互いを結びつけることが可能
になります。

今号では、巻頭言（字数にこだ
わらず内容を重視）。お忙しい方
のためには目次も。湯島の動静で
は本部の活動報告……。総務部を
始め各部の年間活動報告、支部長
会もあります。地方会員の声とし
て北海道、長野県、茨城県からも
届きました。ある時ある会員から
「この会報を手にとると、『物故
会員一覧』に目がいきます。年の
せいでしょうか」と。
人それぞれの生き方があります。
どうぞ、この会報を手にとりお好
きな方法でお読みくださいません
か。ではまた次号で…。

（八重樫 正男）